

訂正とお詫び

本誌のバック・ナンバーにおいて、下記の箇所に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
(編集部)

■ 2006年4月号

● 特集

p.156 図9キャプション：一番簡単な論理ゲートであるNOTゲート

p.157 図10キャプション：入力が三つある論理ゲートは入力が二つの基本論理ゲートで作れる

p.157 図11キャプション：XORゲートとANDゲートを使うと1桁の2進数の加算回路を作れる

p.167 図10キャプション：
[EPM240TC5] → [EPM240T100C5]

● SPICE

p.230 右↓10行目： v_n [μ V_{RMS}] と→

v_n [V_{RMS}] と

p.230 式(14-1)： $v_n = \sqrt{4kTRB} \times 10^{-3}$
→ $v_n = \sqrt{4kTRB}$

p.230 右↓13行目：抵抗値 [$k\Omega$] →
抵抗値 [Ω]

p.230 右↓14行目：幅 [k Hz] →幅
[Hz]

p.230 右↓15行目から16行目：温度
 $T = 300$ K と ~ になります。 → $T = 300$ K
とし、雑音計算で通常使用する単位
[μ V_{RMS}], [$k\Omega$], [k Hz] で書き直すと、
式(14-1)は次式になります。

p.230 式(14-2)： v_n [μ V_{RMS}] =
 $0.129\sqrt{R$ [$k\Omega$] B [k Hz]

p.235 右↓1行目：特性をモデリング
した→特性のモデリングに使用できる

● キャリブレーション

p.240 図1：指定時の誤差→測定時の誤差

p.240 図1： $(1 \pm E_I S_{22}) (E_S E_I S_{21} S_{12})$
→ $(1 \pm E_I S_{22}) + (E_S E_I S_{21} S_{12})$

p.245 図11①：(メス)→(オス)

● トランス&コイル設計

p.250 右↓12行目：図11-3→図11-2

p.251 右↓11行目：式(11-7)→式
(11-8)

p.251 右↓13行目：式(11-2)→式
(11-7)